

市民活動分野 政策1 「多様なコミュニティ活動の推進」

1 目指す姿

コミュニティ活動が活性化し、多様な主体が参画・協働してまちづくりを進めている。

自治会を中心とする地域団体をはじめ、NPO 法人やボランティア団体等が、地域課題の解決に向け活発に行動し、地域の見守りや環境衛生、地域福祉、防災活動などの担い手になっているとともに、住みよい地域社会をつくるために協力している。

<課題解決が進まない場合>

コミュニティ活動が停滞し、まちづくりに多様な主体が参画せず、協働のまちづくりが進まない。

地域住民の繋がり希薄化やコミュニティ活動の担い手不足、NPO 法人やボランティア団体の活動の場が広がらないことなどにより、コミュニティ活動が停滞し、多様な主体が協力してまちづくりを進めることができない。

2 目指す姿を実現するための方向性

<参考> 現総合計画の施策[第4次実施計画の該当ページ]

- A 活力あるコミュニティ活動の促進[P23]
- B 多様なコミュニティ活動環境の充実[P24]
- C コミュニティ組織の自立性の強化[P24]
- D 多様な公共の担い手による協働の推進[P26]

<参考> 現状分析・社会潮流(※基本構想原案には、重視すべき項目を中心に抜粋して記載)

		好影響	悪影響	
内部環境 (地域特性)	強み (十)	① 自治会を中心とした地域団体が、地域の集会所のほか、市民センターや公民館等を活用して、地域の特色を生かした多様な活動を活発に行っている ② 他市に比べて、自治会加入率が高い ③ コミュニティ活動の拠点となる施設が多く設置されている	弱み (一)	① 社会構造の変化や価値観の多様化、過疎化の進行などにより、コミュニティ活動の担い手が不足している ② 自治会に、地域活動、福祉、防災などさまざまな分野で、行政からの依頼事項があり、負担感が増大している ③ 自治会役員の高齢化が進んでいる ④ 自治会加入率が低下傾向にある ⑤ 自治会への助成金の財源となる基金の残高が減少している ⑥ 自治会とNPO法人・ボランティア団体等の連携が不十分 ⑦ コミュニティ活動の拠点となる施設の役割分担が不明確(市民センターと公民館等) ⑧ コミュニティ活動の拠点となる施設について、老朽化対策、維持管理の財政負担が課題となっている
	機会 (十)	① 防災、防犯の場などで、地域コミュニティの重要性が再認識されている ② 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、地域住民自らによる主体的な地域の将来プランの策定とともに、地域課題の解決に向けた多機能型組織の形成が必要とされている	脅威 (一)	① 都市部を中心に、住民同士の関係性が希薄化 ② 社会構造の変化や価値観の多様化

3 市民、地域、企業・団体に期待すること

※ 姫路市まちづくりと自治の条例に規定する基本原則(協働の原則)に基づき、市民、地域、企業・団体それぞれの主体にまちづくりにおける協働をお願いするもの。

(審議会において) ご意見をいただきたい事項

- 1 「目指す姿」について
- 2 「目指す姿を実現するための方向性」について
 <主な検討課題>
 ア 住民の自治会活動への参画意識を高めるためには?
 イ コミュニティ活動の新しい担い手を確保・育成するためには?
 ウ NPO等が活躍し、多様な主体が効果的に協働するためには?
- 3 「市民、地域、企業・団体に期待すること」について